

活力とうるおいの

あるまちを

めざして



都倉市長 都倉昭二

平成五年の年頭にあたり、市民の皆様にご挨拶と新年のごあいさつを申し上げます。

皆様のご支援と温かいご厚情を賜り市長就任八年目を迎えることができました。この間懸案となっておりました市立病院の開院、高齢化社会の進展を展望した中での老人保健施設の開所、文化・芸術・産業振興を目的としたふるさと会館の建設、そして大学の学科増設など大きな諸事業も完遂することができましたが、これも一重に行政・議会・市民が目的に向かって一体となり、切磋した賜と深く感謝申し上げます。

二十一世紀まで余すところ八年

となりましたが、本市もここ数年の間に中央自動車道の四車線化、E電の富士急行線への乗り入れ、そしてリニア中央エクスプレス構想の中でのリニア実験線建設工事の着工など、社会情勢の変貌により大きな変革の時を迎えております。

こうした中でリニア新時代に対応しうる理想的なまちづくりを目指し、都市整備基本計画の策定に入っておりますが、市民の皆様の見解を反映させるため、昨年十一月市内有識者、市議会、市民代表の方など三十九名で構成する「まちづくり研究会」を発足させたところであります。

市民と行政そして議会とが一つになって策定するこの計画は最終的に本市の都市計画に関する基本方針となるものであり大いに期待を寄せているところであります。

また、市長就任以来開かれた市政を目指し「市長と語る会」を開催してまいりましたが、昨年は「住みよいまち、住んでみたくな

るまち」と題し、市内八十七自治会の会長様方から推薦されたご婦人の方々にお集まりいただき、ご意見・ご提言をいただきました。

女性の側から見た市政について非常にきめ細やかなご指摘を賜り各地区共通した意見・要望として環境問題、特に粗大ゴミを中心としたゴミ問題、市立病院への産婦人科、眼科等の増設など多くの意見・要望等が寄せられました。

これら市民生活に直結する問題について早急に対応してまいりますが、粗大ゴミを中心とした環境問題につきましては、本年の最重要課題として取り組み、豊かで清潔な生活環境づくりを目指してまいります。

今、国においては中央集権的発想の転換と生活関連の権限の地方への移管などを柱とした地方分権実現のための特例制度が具体化され、また、昨年地方の活力低下と東京一極集中に対処するため、地方拠点都市地域の整備および産業業務施設の再配置の促進に関する



リニアモーターカー実験線建設（大平地内）

法律が制定されましたが、山梨県においては本年夏にも予想される第二次地域指定に向け地方拠点制度推進本部を設置し、検討に入りました。

本市におきましても、リニア中央エクスプレス構想の中での駅設置、中央自動車道フルインター化を見据える中で、県東部・富士北麓地域の拠点として整備できないか今後早急に検討してまいりたいと考えております。

バブル経済の崩壊により、景気

後退の広がり雇用面にも及んできている状況下、国・県では昨年来緊急経済対策を講じておりますが、市政の健全な運営を図ってまいれる上にも景気が早期に回復されることを願うとともに、今後さらに合理的な行政運営を図る中で生活基盤の整備・教育・文化・保健・医療・福祉の充実、産業振興等を図ってまいれる所存でありますので、なお一層のご指導ご協力をお願い申し上げます。